

横暖ルーフ

工法

重ね葺き

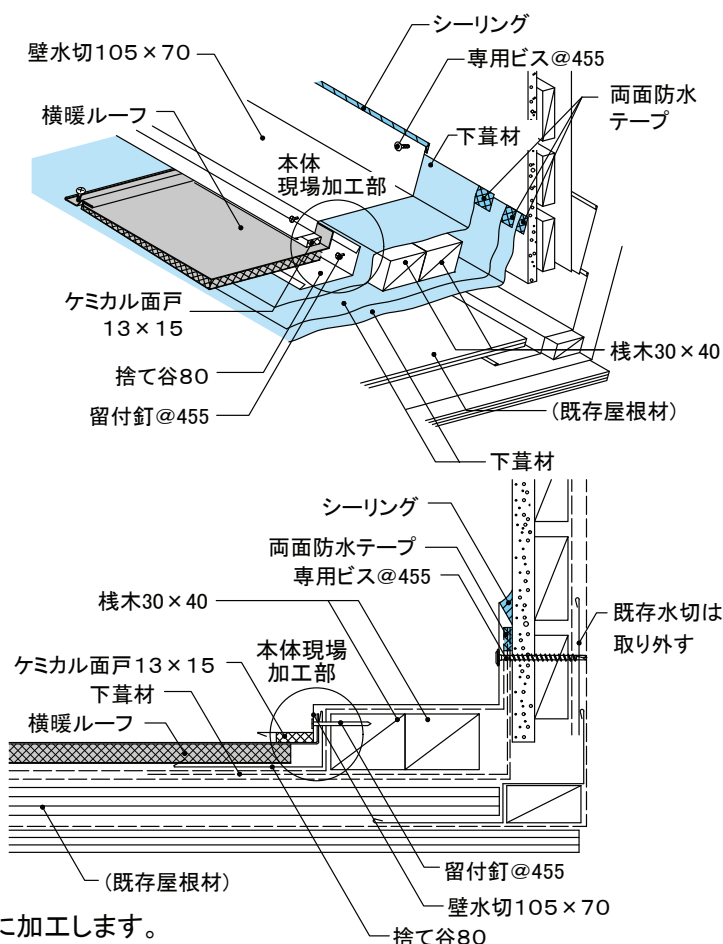
既存屋根材

セメント系新生瓦
アスファルトシングル

8) 下屋根部

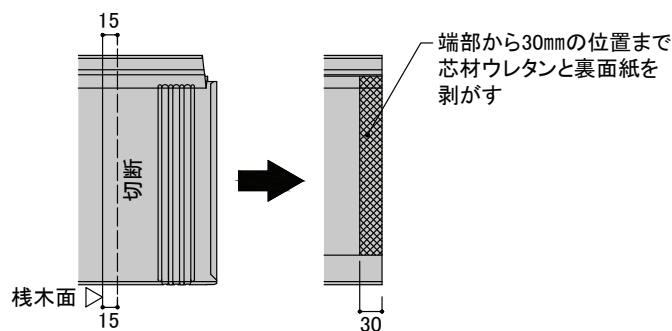
②流れ側 壁水切105×70+捨て谷80

- 既存屋根材に、下葦材を張ります。
(下葦材の壁止まり部は必ず既存壁まで立ち上げ、両面防水テープで留めます。)
- 棧木30×40を2ヶ所取り付け、棧木を包むように下葦材を増し張ります。
- 捨て谷80は留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて455mm以下の間隔で棧木に留め付け、図のように現場加工した横暖ルーフ本体を施工します。
- ケミカル面戸13×15は図の位置に貼り付け、壁水切105×70をかぶせるように施工します。既存壁には専用ビス(ステンレスドリルビスφ4.4mm×55mm)、棧木には留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、それぞれ455mm以下の間隔で留め付けます。
- 壁水切上部にはシーリングを施工し、止水処理を行います。

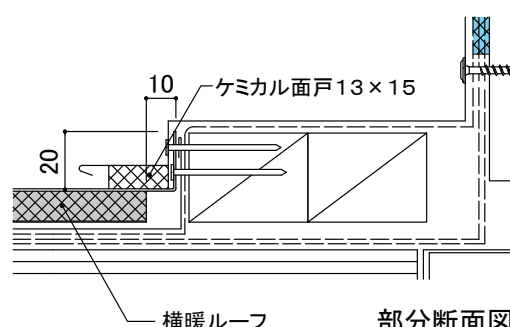


■施工ポイント・現場加工図

- 横暖ルーフ本体の壁付部分は、図のように加工します。



① 棧木面から図の寸法で切断します。



部分断面図

